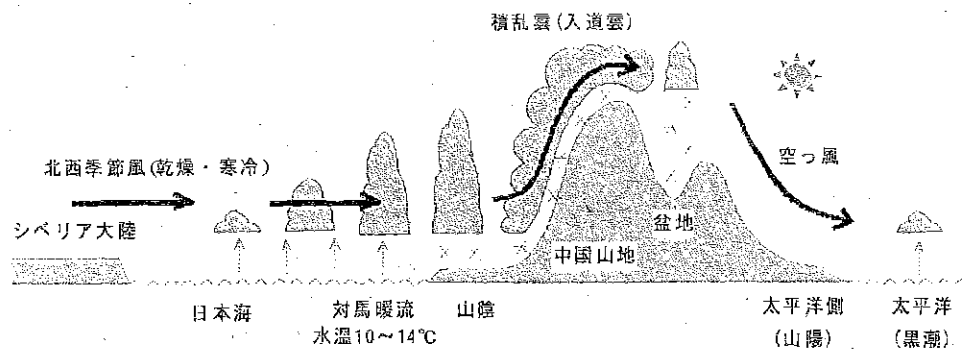


豪雪の仕組み② 水蒸気の供給

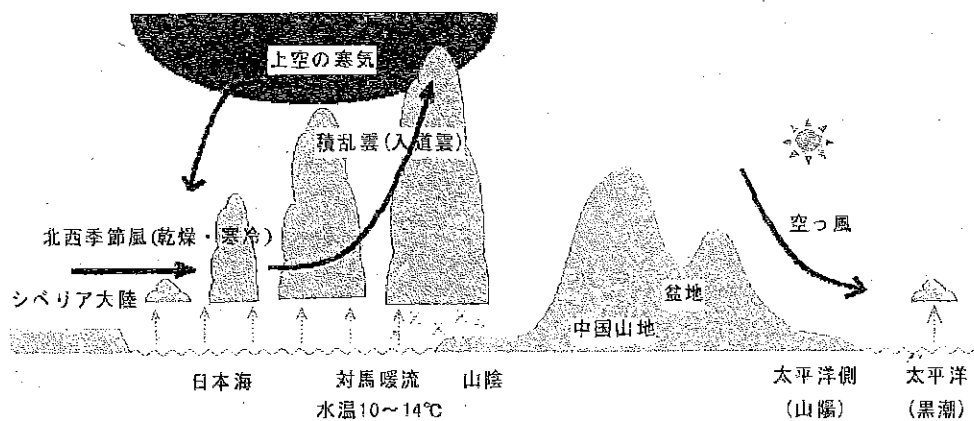
③ 上昇気流による雲の発達



(宮沢原図)

13

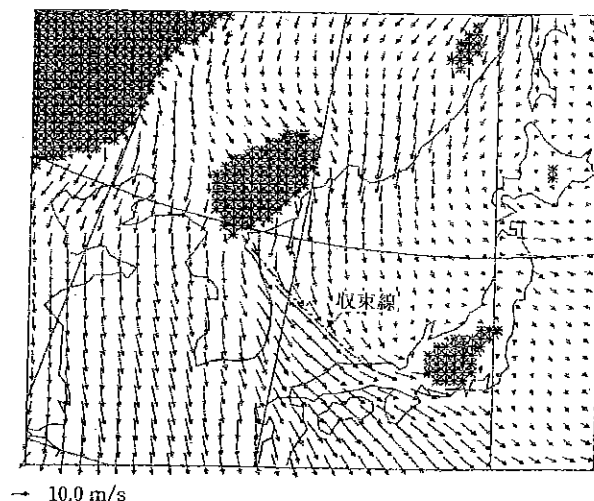
豪雪の仕組み④ 日本海での雲の発達



(宮沢原図)

14

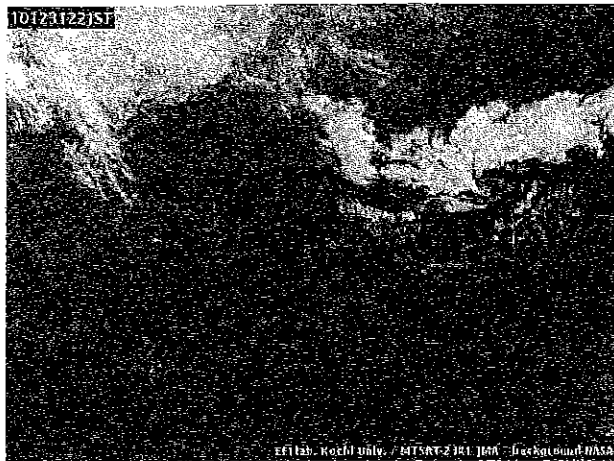
豪雪の仕組み⑤ 収束線



数値計算より求めた高度500mにみられる収束線(永田ら, 1986)

15

気象衛星写真で見る収束線



(高知大学気象情報頁より)

- 2010年12月
31日午後10時
の雲分布
- 日本海西部に収
束線に伴う雲の
列がみられる

16

大雪の仕組み(関係する自然環境)

1. 北西の季節風←西高東低の気圧配置←シベ
リア大陸と太平洋
2. 季節風への水蒸気供給←日本海・対馬暖流
3. 上昇気流による雲の発達←中国山地(脊梁
山脈)
4. 日本海上空での雲の発達←北極からの寒気
5. 日本海での収束←朝鮮北部の山脈

17

大雨・豪雨

18

大雨・豪雨を伝える新聞



(島根新聞1972年7月13日)



(山陰中央新報2006年7月19日)

19

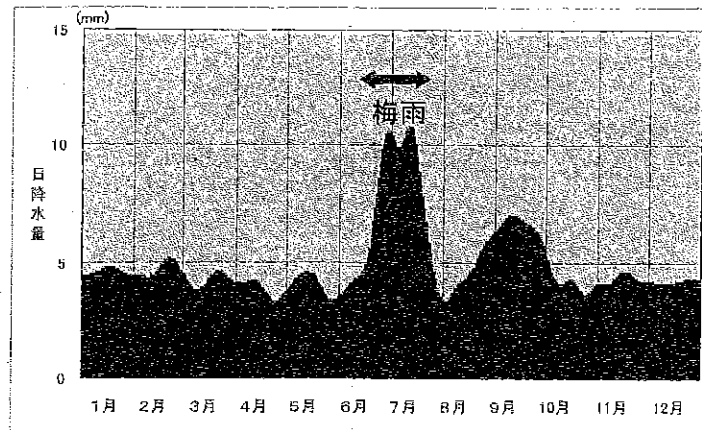
大雨

順位	日降水量(mm)	1時間降水量(mm)
1	263.8 1964年7月18日	77.9 1944年8月25日
2	220.0 1988年7月13日	67.8 1942年9月12日
3	209.7 1943年9月20日	65.5 2003年9月6日
4	201.3 1964年7月16日	65.0 1961年8月8日
5	200.5 1972年7月11日	60.5 1952年7月29日

- ☐ 降水量の記録からみると、47水害が日量第5位 (気象庁HPより)
- ☐ 松江の水害は宍道湖の氾濫に伴うので、1日、1時間と言った降水量には関連しない
- ☐ 梅雨期全体の斐伊川水系全体の降水量に関係

20

降水量の年変化

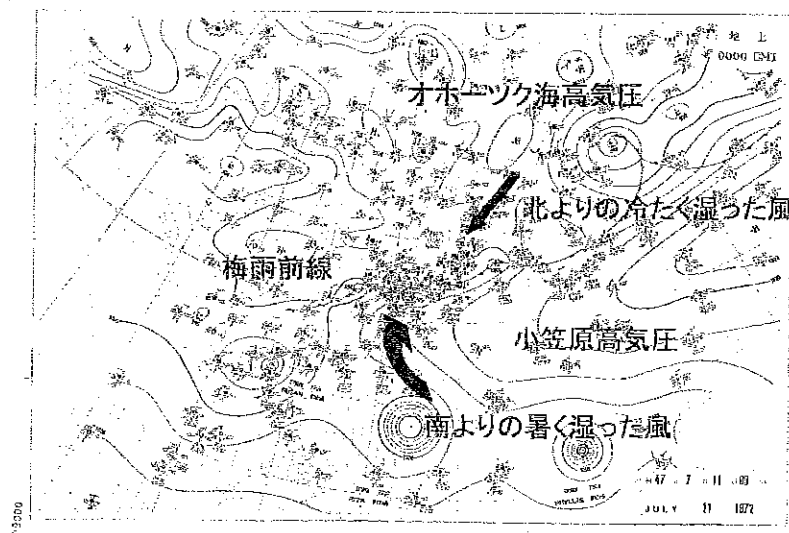


- 6月中下旬～7月下旬に降水量のピーク:梅雨
- 7月はじめに降水量が少ない:梅雨の中休み

(気象庁HPより)

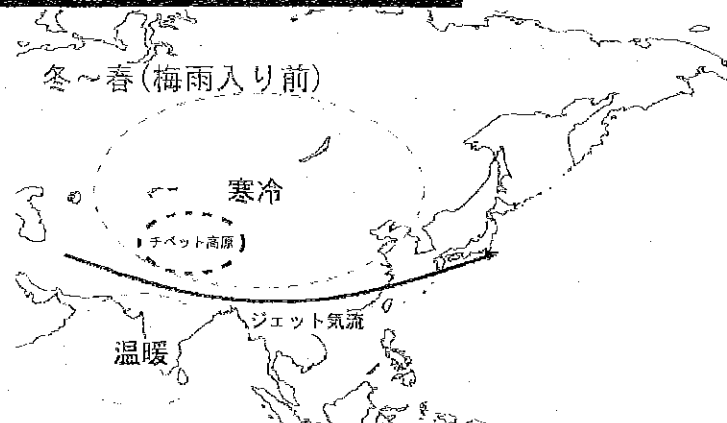
21

大雨の仕組み① 梅雨前線



22

梅雨の仕組み② 上空の気流



- 寒冷なチベット高原～シベリアと、温暖なインドア大陸のあいだにジェット気流(上空の強い流れ)

23